

REGENSBURG

レーゲンスブルク便り

文と写真：吉村美佳(レーゲンスブルク在住)

第1回配信 2015. 5 月号

朝日出版社

〒101-0065 東京都千代田区西神田3-3-5 TEL:03-3263-3321
[URL] <http://www.asahipress.com>



カラフルなイースターエッグ

家族・親戚と一緒に過ごす、イースター(復活祭)

キリスト教において最も重要なお祭りであるイースターは、春分後、最初の満月の後の日曜日に祝います。今年は4月5日。

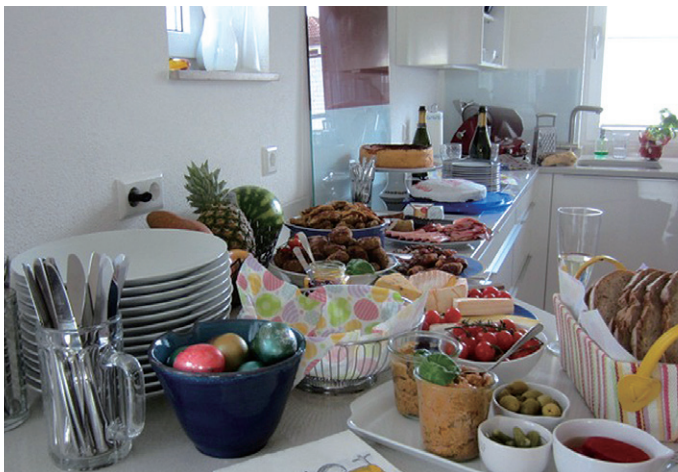
子供達にとっての一番の楽しみは、イースターラビットが庭にこっそり隠したプレゼントを探し出すこと。

大人にとっては、久しぶりに顔を合わせる親戚との近況報告や、美味しい食事。

羊の形のケーキと、カラフルなイースターエッグは、この日欠かせないものとなります。

羊のケーキは、前日または当日に、教会で聖別(儀式的に清めること)してもらいます。イースターエッグは、市販の染料でカラフルに染めるか、玉葱の皮などの天然の色素を使って染めます。我が家では義母の意向により、毎年100個近くのゆで卵に色を付け、親戚中にプレゼントします。

また、この頃を境に長かった冬が終わり、本格的な春が始まります。落葉樹も、順に若葉を準備し、各家庭の庭には、春の花が色とりどりに賑わいます。



ビュッフェ形式の食事



食事の風景

考古学の宝庫

レーゲンスブルクの町は、考古学的宝の山。1954年には、保険会社が事務所を新築しようとして工事を始めた所、西暦179年にローマ人によって造られた壁が発見された他、1985年には、同壁の主要門を発見。ハイド広場では、配管工事中に、12世紀の地下跡を発見。金融関係に携わっていたユダヤ人の居住区であった、ノイプファー広場の下には、中世の金貨が624個発見されたりもしている。

現在一番注目される工事現場と言えば、なんとといっても、ドナウ川沿いの『バイエルン州歴史博物館 (Museum der Bayerischen Geschichte)』建設予定

地。ここは、昔たくさんの建物があったが、戦争で更地となった後、長い間、毎週土曜日には市場として大賑わいだった。昨年、1200年前の木造の建築物が発見されて注目を浴びたかと思えば、今年3月上旬には、パン屋の跡地から、250年前のブレッツェルというパンが見つかったばかり。歴史博物館は、2018年5月、バイエルン州創立100周年開館予定。



レバーケーゼ・センメルと甘いマスタード

ここレーゲンスブルクで、手軽に食べる昼食と言えば、レバーケーゼ・センメル。これは、どこの肉屋でも、テイクアウトをさせてくれる、温かくて、いい匂いが食欲を誘う食べ物。名前には、レバーとチーズが含まれているが、その両方とも材料に含まれない。大きなハムのようなものから、厚み1センチ程度を切り取り、センメル（北ドイツでは、Brotchen）と呼ばれる白い丸いパンに挟んだもの。

工事現場の作業員なども、お昼になると、近くの肉屋に昼食を買いに行くことが多いので、肉屋のお昼は大忙し。

ここレーゲンスブルクでは、甘いマスタードをつける。甘いマスタードは、その他、白ソーセージや焼きソーセージとの相性も良い。もちろん、石橋の袂にある、歴史的ソーセージ屋でも、甘いマスタードを使用している。



ドナウ川沿いの肉屋、カインのレバーケーゼは特別美味しい

春の陽気に誘われて…

カフェやレストランも、やっとお店の前の広場や通りに机や椅子を並べる季節となりました。特に、4月末の雲一つないさわやかな春の陽気。狭い場所では、



広場に並ぶ机と、開店前にテーブルセッティングに忙しい店員さん達

建物の陰になつたりしますが、心配ご無用。ちゃんとブランケットも用意されています。

街を通り過ぎる人を観察しながら、お友達同士でお話したり、食事したりするのは、楽しいひととき。通りすがりの人の中に、知り合いの姿を発見することも。今年は雨の降らない陽気な3月の後、暫く少し寒い日が続いたかと思うと、また晴天続き。昼頃からは、薄手の長袖で街を歩いて気持ちいい天気。

広場や路地のあちこちに、机や椅子が並びます。

家庭でも、テラスやベランダで食事やお茶をしますが、さわやかな天候のドイツならではのこと。せつかくのこの天気、家の中には、もったいない。これも、自然の恵みを満喫する、ドイツの生活の一場面。